



会の告知版

11月 9日(土) 16ミリ映画の映写会

開演 13:30

於 中央図書館1階視聴覚教室

上映 ○鉄道員(ぼっぼや)

原作: 浅田次郎 監督: 降旗康雄

出演: 高倉健 大竹しのぶ 広末涼子、小林稔侍

北の果ての小さな終着駅で不器用なまでにまっすぐに人生を送ってきた鉄道員、北海道の寂れた町での愛らしい少女との出会い、永年ローカル線の廃線、そして定年。哀愁漂う珠玉の名編

○ライダー・カップ 1977(ゴルフ米英チーム対抗戦)

27年に米英間で発祥し、賞金でなく国や大陸の名誉をかけて戦う2年に1度のゴルフ米欧対決。本版は米vs英/アイルランド戦。J. ニクラウス、T. ワトソン、H. アーウィン、N. フェルドなど往年の名プレイヤーの競演。50分。(当会太田顧問蔵フィルム)

*上映は当稲門会員映写技師により行われます。

10月27日(日) 東久留米七福神巡り(郷土研究部会主催)

12:30 東久留米駅中央改札口集合-12:45 出発

-13:00 浄牧院(大黒天)-13:45 宝泉寺(弁財天)

-14:30 大円寺(恵比寿、福祿寿、寿老人)

-15:15 米津寺(布袋尊)-16:00 多聞寺(毘沙門天)

*徒歩全行程7km

11月15日(金) 川越の街散策の会(女性サークル部会主催)

9:10 東久留米駅2階改札口前集合

10:00 西武本川越駅最終集合・点呼

*小雨決行

12月 1日(日) 第7回 東久留米雑学塾

15:00~16:30 於 中央公民館 第1・2集会室

演題「わたしの日本人論」 第2話:「"草食文化"という視点」

講師 國米家己三(元産経新聞記者、当会顧問 31年政経)

— " —

役員会

13:30~15:00 於 中央公民館

[部会スケジュール]

太極拳部会

毎月毎週土曜日

10:00~11:30

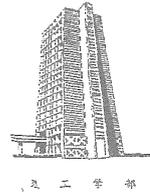
成美教育文化会館

*10月19日(土)は所沢航空公園野外開催 10:30より

- 俳句部会 11月17日(日) 13:30~17:00 中央公民館
12月23日(月-天皇誕生日) 定時句会後忘年会
- 書道部会 毎月第二日曜日 13:30~16:00 中央公民館(原則)
- 囲碁部会 10月27日(日) 13:00~16:30
村山稲門会囲碁部との対抗戦 成美教育文化会館
- 11月23日(土)~24日(日)合宿 於 日立市、ホテル静台荘
- ゴルフ部会 11月22日(金) 早大校友会主催、全国支部・稲門会総長杯ゴルフ
大会に併合して開催。
於 おおむらさきゴルフコース(埼玉県滑川町)

[大学・校友会関係]

- 10月19日(土) 三多摩稲門連合会長会及び大会
14:00~20:00 於 吉祥寺東急イン
奥島孝康総長退任記念講演会 演題「梓立大学 早稲田の実現」
丹生谷佳恵ピアノコンサート
懇親会(早大ニューオルリンズジャズクラブ出演)
- 20日(日) 稲門祭・ホームカミングデー(既報 詳細6号参照)
- 11月 3日(日)・4日(休日) 早稲田祭2002
10:00~18:00 於 早稲田大学キャンパス
- 11月 5日(水) 早大第15代総長(白井克彦理工学部教授)就任式
- 10日(日) 商議員会



新企画-16ミリ映画の映写会について

会長 高橋 勤

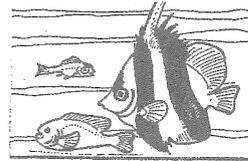
東久留米稲門会では、新しい行事として16ミリ映画の映写会をこれから年に何回か開催することを計画しています。できれば古い名画等を上映し、皆様に若き日の思い出と感動を映画の中に見いだしていただければと思います。映写会を会員の皆様の交流の場に提供し、合評会等の話し合いを通じて、会の輪を広げることができればと思います。また、映写会を東久留米市民の人達にも広く広報して、現在すでに始動しています東久留米雑学塾と相携えて、当稲門会の目的のひとつでもあります東久留米市に対しての奉仕、文化的貢献への一助となれば幸いです。

映写会の実行に向けて、帆角事務局長、松崎幹事、森田幹事に16ミリの映写機操作技術者の資格を取ってもらいました。幹事の佐々木さんも既に資格取得済みと知り、大変心強く思っています。

今はいろいろと調査、研究しているところです。現在、16ミリ映画は後退してきており、ビデオ、DVD等にその地位を明け渡してきています。従っていかに思い出の名画をどのような方法で皆様に提供できるかと模索しているところです。現在のところは16ミリの映写会を主に開催して行きたいと思っています。

会員の皆様のご意見、ご希望などありましたらよろしくお願い致します。

会の行事



納涼懇親会開催

9月1日(日)午後6時半から市民プラザホールで当会恒例の納涼懇親会が開催された。アロハシャツなどを着込んだ57名の参加者は、当会会員の森富士雄氏が所属するハワイアンバンド、「ケン ハワイアンズ」による生の演奏を聴きながら、夏の名残のひとつを楽しく過ごし、最後に恒例通り校歌を参加者全員で高らかに歌い、8時半過ぎ盛況の裡に閉会となった。

今納涼会にはご夫妻で参加された方々が8組にのぼり、親睦の広がりを見せたことは特筆される。

大学・校友会の行事



早稲田祭2002 開催決定!

革マル主導の開催をきらい奥島孝康総長により過去5年中断されていた早稲田祭が、早大生の自己責任、自主努力のもとに開催される運びとなった。大学からの補助金を一切受けず、特定の政治思想や主張、宗教を持ち込まないことを誓約した「早稲田祭運営スタッフ」(教職員の参画はない)が実施運営にあたる。

<催行内容> オープニング/エンディング・パレード、著名人を招いてのシンポジウム、ロックフェスティバル、お笑いバトル、デザインコンペ(以上本部企画)

芸術系サークルの展示発表、音楽サークルによる演奏・合唱、屋外パフォーマンス、映画祭、著名人の講演会・トークライブ、アーティストライブ(以上一般参加企画)

都内稲門会会長会―「東京都の稲門会組織に関する意見交換会」

9月5日(木)午後6時から大隈会館で、都内稲門会の会長らが集まり、都内の校友会組織を支部に改編することについて意見交換会が開かれた。そのきっかけとなったのは、今回の総長選で、全国36万校友のうち、東京都が12万校友をかかえるのに、支部組織が確立されていないことから総長選への投票資格がなかったことからだ。討議後、現在の「23区稲門会連合」と「三多摩稲門会連合」を、それぞれ「23区稲門会支部」、「三多摩稲門会支部」に改名し、都に二つの支部を置く方向で意見の集約をみた。

秋季代議員会開催

10月5日(土)午後4時より大隈講堂にて開催。①2001年度決算 ②安部磯雄記念校友会奨学金創設 ③校友会規則等一部改正(上述)④幹事・会計監事選任、等が討議、承認された。最後に今期にて退任される奥島総長、中嶋代表幹事の在任8年間の統括スピーチがあり閉会となった。当会より帆角/比護/山岡/安次峰の4代議員が出席。

部会便り



俳句部会

龍王峡吟行記－9月16日朝7時、俳句仲間総勢15名（うち女流3人）を乗せてマイクロバスは東久留米駅西口を出発。東北道に入ったところで突然校歌のテープが流れ出し、これに和して朗唱するわれらが長老太田千雪さんの若々しい声で今度の吟行の旅は始まった。雨催いの空からはやがて小雨が落ちてきたが、昼食の後目的地龍王峡に着く頃には雨もひとまずあがり、暑からず寒からずの吟行日和となった。

龍王峡は、鬼怒川・川治両温泉の間にある、自然が何千何万年もかけて創り上げた怪岩、奇岩から成る溪谷美。そのうちの白龍溪と呼ばれる虹見橋からむささび橋をめぐる約3Kmのコースを、俳吟遊詩人達は句帳を携えて散っていった。

森林の緑を浴び、雨に濡れた峠道や木道に足をとられながらも、轟音轟かす虹見の滝や豎琴の滝、そしてかめ穴や兎はね、水芭蕉の群生を見ながらの楽しく和やかな吟行のひとつきであった。

当日はホテルに着いて投句のみ。夜の宴会はもちろんカラオケで盛り上がる。翌17日も雨。途中ペゴニア園「花いちもんめ」に立ち寄り、しばしメルヘンの世界に浸り、帰途につく。そして本番の句会は何と走るバスの中という珍しいものとなった。早速披講に入り数々の名句が読み上げられる。そのあと橋雅契、太田千雪両先輩の選評も厳しかったが、談論風発してまことに和やかな句会となった。時を忘れて午後3時東久留米駅西口に無事到着した。

(桜庭 明記)

○8月25日(日)第41回句会高得点句(五点句以上) <季題>新涼、新蕎麦、蝸

新涼や寝返りし児の白き嘘 神田 尚計

新蕎麦を備前に盛りて箸を割る ”

蝸や夕餉の仕度葱さざむ 安宅 武一

○9月16日(月)・17日(火)第42回 鬼怒川龍王峡吟行 高得点句(四点句以上)

岩を抱く走り根濡らし霧の雨 三田 三(畔巢)

鬼怒の峡音を辿りて秋の滝 神田 尚計

鮎焼いて栃木なまりの客を呼ぶ 太田蔵之助(千雪)

岩を噛む虹見の滝や秋時雨 安宅 武一

書道部会

箱根で第3回錬成会実施－9月7日(土)～8日(日)(1泊2日、参加者女性3名男性8名の計11名)3台の車で東久留米市を出発し、御殿場IC～箱根に約2時間余りで到着した。合宿先(コマツ箱根保養所)までの途上、「箱根湿性花園」に立ち寄り、高山植物1100種、北海道～沖縄の湿地帯植物200種、萩、桔梗、葛、女郎花、藤袴、尾花、撫子”秋の七草、他仙翁の花等、何と約1700種の植物を觀賞し湿性園木道を楽しんだ。次に「成川美術館」では眼下に広がる芦ノ湖、日本一の借景と運よく現代五山作家、平山郁夫、東山魁夷他の日本画展に出合った。

いよいよ錬成会合宿、①課題は自由課題、掛軸の長さの条幅(半切)に向い、新聞紙を敷

き四つん這いで無言の書道に克己対決。②武藤先生による言葉優しい酷評と指導を受け、③平山十方氏の読売新聞受賞作品が武藤先生から紹介され、(150文字余りの創作行草書、一字失敗しても書き直し)その流暢な筆致と墨量の見事さに感動を覚えました。

100枚以上書き直したと聞く ④この書道部錬成会を通じ、近き将来美しい変体仮名を活用して毛筆で年賀状を書けるようにと願う次第です。

お酒も結構頂き、特に良質梅がよかったのか、お湯割り焼酎の味は格別でした。カラオケの時間も忘れ和気藹々の歓談、乳白色の温泉にひたり、翌日大した忘れ物もなく、<大湧谷自然科学館>を見学し、ホテル大箱根と大箱根カントリークラブを後にして、箱根新道を下り、小田原で少々お土産を買い求め、小田原厚木、東名高速道で東久留米に無事到着した。

箱根仙石原の高級別荘地風で、手入れの行き届いた素晴らしい大庭園と綺麗で清潔さらには多種少量の美味しい料理、乳白色の温泉を備える保養所には皆さん口を揃えての好評でした。
(福田 稔記)

囲碁部会

「第2回オール早稲田囲碁祭」が間近に迫ってきました。9月29日(日)、市ヶ谷の日本棋院で行われます。200人を超す校友棋キチが一堂に会し覇を競う様はまさに壮観です。当部会からも2チーム、10名が参加します。昨年の反省をふまえ、手合時計を使った対局の練習も充分?したつもりです。次号で状況報告をする予定です。

10月27日(日)の囲碁部例会日には東村山稲門会囲碁部の面々がやってきます。早いもので交流は四回目となり、お互いにすっかり顔なじみになっています。

恒例の囲碁部合宿ですが、11月23日(土)・24日(日)に決まりました。例年より遅い開催になりますが、実は「あんこう鍋」にありつこうという魂胆からです。場所は日立市河原子町の海辺の囲碁宿、「ホテル静台荘」です。現在、参加者を募集中ですが、既に9名が内定、例年を上回る盛大な会になる予感がしています。

(14.9.26 部会長 辰巳 徳蔵記)

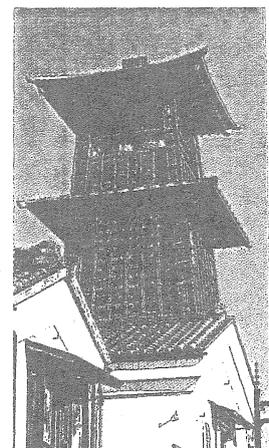
女性サークル部会

11月15日(金)「小江戸川越ぶらり」を催行します。晩秋のひとつ、情緒溢れる城下町、川越を散策してみませんか。東久留米駅から30分で本川越駅へ。まず川越のお大師さまと呼ばれる喜多院に立ち寄り、江戸城から移築した客院、書院、庫裏を見て往時を偲びます。次に、昔懐かしい菓子屋横丁をぶらり、蔵造りのおしゃれなメインストリートをゆっくり歩いていくと、「時の鐘」が鳴るのが聞こえます。皆様のご参加をお待ちしています。

(連絡先) 棚野愛子 電話 (73) 1060

河村洋子 電話 (77) 3294

(部会長 棚野 愛子記)



噴水広場

太極拳の一考察(その歴史と効果)

船尾和三(太極拳部会長 26年商)

9月13日日(金)NHKで、中国の観光人気スポットの一つ桂林、「天下の絶景への誘い」が放映された。薄墨の山水画のような奇岩奇峰の間を滔々と流れる漓江、河畔で悠久の歴史の流れに沿う如く、太極拳を演舞している人達が写し出され、その光景に何とも言い知れぬ清々しい感動を受けた。

太極拳はもともと武術であり、芸術であり、哲学を含んだ心身の健康法と言われる。動きは丸くて柔らかく、ゆっくりと途切れることなく続き、その手足の動きが太極図(北宋の周敦頤が工夫した図形)に似ていることから太極拳と呼ばれるようになった。

起源は西暦1300年、北宋末期の武人「張三豊」が、鶴と蛇の格闘を観察して太極拳の原案にしたとか、西暦1600年明末期の武将「陳王庭」が太極拳を考案した始祖とか、種々の諸説があるが何れも定かではないようだ。

流派は大別すると、楊式、陳式、武式、呉式、孫式の5通りで、演舞方法は、108式、88式、66式、48式、32式、24式の6通りの他、多数の型があるとされる。西暦1956年新中国以後、毛沢東は国民の健康増進を計る為、各派、各演舞を「簡化太極拳24式」に纏め、太極拳基本と制定し全国に広めた。

一方日本国内には、各流派を基本にする武術太極拳や気功太極拳などがあり、約百万人の太極拳愛好者がいると言われる。中でも大きなグループの一つに日本健康太極拳協会があり、「楊名時」が師家である。

彼は幼少時に武術全般を習得し楊式太極拳を伝授されたといわれ、戦前日本に留学し京大在学中から柔道や空手を精進した。西暦1960年に、中国制定の「簡化太極拳二十四式」に工夫をこらし独自のスタイルを創始した。いわゆる気功医療体術の「八段錦」であり、調心、調息、調身の気功3要素を充たす「健康太極拳二十四式」である。

医療体術の効果として3要素は下記の通りである。

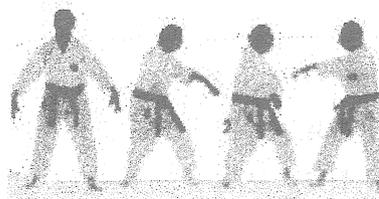
調心； 太極拳は動く禅と言われている。太極拳を続けることでストレスが解消され、焦らなくなり、眠れるようになり、集中力を高める。

調息； 1分間の望ましい呼吸数は座禅や丹田呼吸法と同じ4回である。従って通常1分間17回の呼吸より酸素摂取の効率が優れる。

調身； 動きが上虚下実で、腰部分と下肢の抗重力筋を鍛え、高齢になっても立つこと歩くことがしっかり出来る。足関節や膝関節の痛みが消え、片足立ちでのバランス感覚が良くなり転倒を防ぐことが出来る。

私が太極拳に興味を持ったのは約20年前のことであるが、近年頸椎部損傷で手術を受けて後に、健康維持のため本格的に気功太極拳の稽古を再開し、毎日が元気で居られるのはそのお陰と信じている。

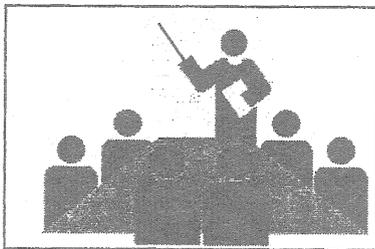
冒頭で述べたように、太極拳はもともと武術であるから攻撃と防御の組合せであり、攻撃と言い防御と言い紛れもなく相手とのコミュニケーションになる。相手といっても仮想の相手は人間とは限ら



ない、あるときは大自然であり、あるときは地球であり、あるときは銀河系であり、あるときは虚空であるかも知れない。

私達が生きていく大きな目的として、虚空と一体になろうとのリハーサルが太極拳であると確信し常に精進できればと考える。稽古終了後に皆さん一人残らず爽やかな笑にいい顔になって居るのに気づく事があり、これが虚空と一体となり気が充満した不思議な現象と思っている。(14.9.22)

東久留米雑学塾 — 講演要約



8月4日(日)中央公民館で当会主催の第5回雑学塾が開催された。講師は当会会員で現在「東久留米の水と景観を守る会」の代表を務める佐藤雄二氏。演題は「わがまち東久留米の残すべき原風景(林、畑、湧水)と残せる可能性」。一般市民を含めた40名余の参加者を前に、東久留米をこよなく愛する氏が市内をくまなく探訪して撮影したスライドを使って、残したい原風景を映写するとともに、どうしたらこれら貴重な風景を残せるかを具体的に解説された。

第5回講演「わがまち東久留米の残すべき原風景と残せる可能性」

講師 東久留米の水と景観を守る会代表

佐藤 雄二

(東久留米稲門会会員・37年理工)

東久留米市に住んで28年、このまちをすっかり気に入っていたが、宅地化の波が押し寄せ、大切な林などが突然切り払われるというような自然環境破壊や景観損傷を目にして、残念な思いをするとともに、何か残す方法はなかったのか、最善の方法が駄目だとしても、次善、三善の方法があるのではないかと、さらに、これからでも同じようなことが起きる可能性があるのだから、環境破壊や景観損傷を少しでも食い止める手立てを考えてみてはどうかと思い立ち、仕事に余裕ができた昨年秋あたりから、足を使って市内を歩き回って、この問題について調べたり、考えたりしてきた。今回はこの中間報告である。

まず1週間市内を回って、前々から残したいと思っていた風景をスライドに撮った。東久留米市の地形を形成した黒目川とその支流の落合川、野火止歴史環境保全地域、金山や南町などの緑地保全地域、小山遺跡公園、柳窪、竹林公園周辺などを撮影したスライドは42枚。

次に、これら風景を残せるようにするにはどうしたらいいか。まず、残したいという共通の思いを顕在化させる手段として、名所絵はがきや各種パンフレット・マップの作成、写真展や風景100選展開催などでその意義や重要性を訴えることは欠かせない。次に、残すべき具体的な手段として、1番目に既存制度の活用である。東久留米市の「みどりの基金条例」の活用、「みどりに関する条例」に基づく保存樹木・保存生垣の指定、東京都の「東京における自然の保護と回復に関する条例」の活用、農地の生産緑地指定などがその具体策だ。2番目に新制度・新計画の実現、問題のある計画の変更を求める努力が不可欠で、樹林地の相続制度の改正、東久留米市が「緑の基本計画」の中でうたっ

た湧水復活策の実施、落合川修復工事計画の変更(直線化工事の修正)、貴重な緑地を寸断する道路計画の変更などを提案し、実現に移していきたい。

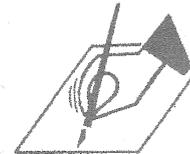
そのためには、市民ボランティア、就中、年金生活に移行し、支払う税金が減ったものの、まだまだ元気な熟年層のボランティア参加を強く期待する次第です。



東稲広報室

東稲ニュース発行、毎奇数月10日に変更します

関連主要行事が偶数月に集中することから、本紙偶数月10日の発行(寄稿締め切りは前月一偶数月25日)では記事が間延びしニュース性が乏しくなるため、来年(2003年)からは奇数月10日の発行(寄稿締め切りは偶数月25日)に変更する事に致しました。これにより、本年12月10日の発行はなく、次回9号は1月10日の発行となります。準じて次号の寄稿締め切りは12月25日となります。



会員の声

<俳句部会に入って> 旅の好きな人間にとって俳句と短歌は良き伴侶であり時には一句なさんと呻吟することもあるが、何しろ一人よがりの自己満足に過ぎない。たまたま去年完全リタイアしたのを機に正式に俳句をとっていたところ、稲門会に部会ありと知り早速4月の総会で入会し俳句部会に入った次第です。まだ句会出席は三回であるが、全員が批評家であり遠慮のない発言はさすが早稲田の句会と変に納得した。

俳句はわが家にも波及し新たな刺激となっている。句会を前にしての兼題では素人批評家であり選者である老妻も席題ではそうもゆかぬが過去の共有者としてあの日あの時を想起させてくれる存在は貴重である。事実二回目の句会の席題「ひまわり」ではとっさにあの暑い夏の日、二人で眺めたひまわりを思い浮かべた。その日市民農園ではようやく陽が西に傾き農具の手入れを終えた人達は三々五々帰り仕度を始めていた。そんな時畠の隅に一本の大きなひまわりが西日を浴びて輝いていたのが印象的であった。その場景を早速一句に託し出来上がったのが「ひまわりや暮れゆく畠に子らの声」である。

図らずも二点句に選ばれ光栄の至りであり、これを励みとしていきたい。ともあれごく日常的な生活の中で俳句が新たなテーマとして加わった意味合いは大きく今後とも生活に潤いと賑わいを与えてくれることであろう。

(高塩 和己 26年商)

[編集後記] ○早いもので、東稲ニュースも回を重ねて第8号となった。”継続は力なり”を信条に、曲がりなりにも休刊、遅刊せず来れたのは何よりの幸せである。誤植、脱漏多く、時には編集子の曲解もあって、寄稿者の皆様にも失礼したことも少なからずあったと畏れるものだが、本誌が当稲門会親交・絆の拡範強化に少しでもお役にたっているならば、これに過ぎる喜びはない。 ○”東稲広報室”でお知らせしたように次号は1月10日の発行となります。鬼に笑われる御挨拶ですが、新春に装いも新たにお目にかかりたいと思います。